

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0370300311		
法人名	医療法人勝久会		
事業所名	グループホーム綾姫		
所在地	〒022-0211 岩手県大船渡市三陸町綾里字清水67番地 (電話) 0192-42-3888		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年9月2日	評価確定日	平成20年11月12日

【情報提供票より】(平成20年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	10 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての		2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立大船渡病院、綾里診療所、地の森クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該建物の1階にはデイサービスセンター、2階にグループホームが位置しており、ホームの窓からは田園や竹林など豊かな自然が眺望できる。本年度から1階のフロアが一体的に利用できることとなったため気軽な人の出入りが可能となり、デイサービス利用者や近隣の住民ともふれあう機会が増えるなど、交流の幅を広げている。また安心して暮らすことのできる環境づくりを行うとともに、職員は利用者一人ひとりのその人らしさを見いだし、得意なことやできることは生活の中で発揮できるように動機付けしながら、生きがいと張り合いを持った生活の支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題とされた「地域密着型サービスとしての理念」については、昨年職員間で話し合いを行い、理念の見直しを行っている。また災害対策として、避難訓練の実施のほか、夜間や震災時の対応マニュアルを作成している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価への取り組み、そのプロセスを通してこれまでの実践を振り返りながら、自己・外部評価の意義や目的の理解に努めるとともに、気づいた点については、ホームの目標として位置づけ、その実践に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に開催されており、主な内容は、ホームや利用者の近況報告、意見交換などとなっている。委員からは、地域でのホームのあり方、災害時の対応などについて活発・主体的な意見提言が出され、カーブミラーの設置など、その具体的な改善がなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族がホーム来訪の際に、利用者の居室で健康状況や生活の様子等を報告しており、状態変化時等には常に連絡を取り合っている。行事や面会の際に意見交換を行い、いつでも苦情・提言が得られるような雰囲気・環境づくりに努めている。また投書箱を玄関に設置しているが、現在のところ出された意見等はない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や買い物など日常生活を通して、あいさつを交わし、顔なじみの関係を築きながら近所の人々と交流を深めている。特に地域の一員として、回覧板の回付、清掃等地域の作業にも参加、子どもたちの運動会などにも数多く参加して交流を深め、ホームへの理解を深める機会となっている。</p>

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年職員によるブレインストーミングを行い、「一人の人として私らしく輝ける場所。心あるケアを受けられる場所。地域に支えられ、お互いが安心できる場所。大事な人とのつながりの中で、ともに笑顔で居られる綾姫でありたい」との理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人らしい」生活を支援するため、ケアプランに日々の生活における役割活動について取り上げ、検討している。また月1回の職員ミーティングにおいて、利用者の暮らしぶりなどについて確認し合うことなどにより、できないと思っていたことが実際にはできることが分かったという新たな発見につながっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物など日常生活を通して近所の人々と交流を深めている。特に地域の一員として、回覧板の回付や清掃等地域の作業への参加、子どもたちの運動会等の行事への参加を通して、ホームへの理解を深める機会となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価への取り組み、そのプロセスを通してこれまでの実践を振り返りながら、自己・外部評価の意義や目的の理解に努めている。気づいた点については、ホームの目標として位置づけ、その実践に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に行われており、主な内容は、ホームや利用者の近況報告、意見交換などとなっている。委員からは、地域でのホームのあり方、災害時の対応などについて活発・主体的な意見提言がなされ、カーブミラーの設置など、その具体的な改善がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月開催される介護保険事業者連絡会や地域ケア会議など会議を通じて、担当者との情報交換などを行うほか、普段からいつでも気軽に連絡や相談等ができる関係がつけられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報紙「綾姫だより」や3ヶ月ごとの「お便り」で利用者の表情や生活の様子等を詳しくお知らせしている。また状態変化時等は常に連絡を取り合っている。預かり金については、レシートを添えて収支について面会時に説明し、家族の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事や面会の際に家族と意見交換を行っているほか、投書箱を玄関に設けている。出された意見等はないが、いつでも苦情・提言が得られるような雰囲気・環境づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームも組織であり、異動は止むをえない面もあることから、異動の際は、職員配置の工夫やチームワークなどにより、利用者との馴染みの関係、心の安定が失われないことを基本として考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加については職員の希望を踏まえ、技術や経験等に配慮して可能な限り多く参加するようにしている。資格取得に関わる研修についても、勤務体制等でカバーし合う体制づくりなどで、その支援に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会(岩手県、ブロック)の例会等に参加して意見・情報交換するほか、同業者との職員交換研修にも意欲的に参加するなど、交流促進、ケアのレベルアップを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始の前には利用希望者とのコミュニケーションを図り、ホームの見学や職員が本人宅を訪問する等を通して顔なじみの関係づくりに努めている。また本人及び家族との面談により、本人の一日の生活の流れや希望を確認して、ホームでの生活の参考としながら、サービス利用に結び付けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物、食事づくり、清掃などの場面において、得意な活動やその日に興味を示した活動を一緒に行うことで喜びや楽しみを共有している。また地域における慣習について、利用者の教えを受けながら、共に学び支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント記録に加えて、普段の会話や行動、表情等から、利用者ごとに「出来ること」を把握して、ホーム独自の「入居者役割活動記録」にまとめており、それらを情報共有して、より一層本人の思いや希望に添ったサービス提供が出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人及び家族の希望を確認しながら「今出来ること」「出来ていること」について、長く継続できるようにするとの思いで、計画作成担当者を中心に計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとにモニタリングの結果や「入居者役割活動記録」等の記録、日常生活における職員の気づき、家族等の意見をもとに介護計画の見直しを行っている。利用者の状態変化時にも、看護師等との話し合いを重ねて必要な見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日の買い物やドライブ、散歩など外出については、利用者一人ひとりの思いや希望に添うべく対応している。その他、通院支援やふるさと訪問、冠婚葬祭への出席に同行支援するなど、必要に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人家族の希望するかかりつけ医となっているが、変更する場合には本人及び家族へ説明のうえ同意を得ている。通院は家族同行を基本としているが、事情があり家族同行が難しいケースが多く、職員の通院支援で対応している。また看護師が半年に一度受診同行して、主治医の指示を聴取し、情報共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族等へは契約の際に、医療連携体制の指針について説明を行っている。また職員は、法人内に設置している看取り委員会の勉強会等へ参加することにより、その情報共有をしている。具体的な利用者の重度化・終末期に当たっては、本人の意思や家族の意向を尊重して可能な限り、その意思に沿うことを基本として考えている。	○	利用者家族の思いに沿った対応をするため、終末期等のホーム・職員の対応方法について、継続して研修や意見交換を重ねて意識や情報の共有を図ることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「大きな声で話さない」「子ども扱いの声がけはしない」など、利用者の尊厳に心した声かけを行っている。またケース記録等の管理や、広報等に写真を掲載する場合には家族の了解を得るなど、個人情報保護・守秘義務の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴等の時間は利用者のペースを尊重しながら対応している。買い物や美容院等への外出のような利用者の希望については、日々耳を傾け、出来る限り対応するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなものや旬のもの、家族や近隣からいただいた食材なども合わせて使った食事を提供している。利用者は調理、配膳、食事、片付けなど様々な場面で役割を担い、職員と一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった時間や曜日を設けず、本人の希望や体調等を考慮しながら対応している。ホーム専用の浴室はあるものの、一階のデイサービスの広い入浴場が利用できるようになり、気の合う方とともに入浴することも可能となったため、入浴を拒否する回数が減少するなどの効果を得ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・片付け、清掃、来客へのお茶だしなど、一人ひとりの得意なこと、出来ることを通して役割感や楽しみ、気晴らし感を得ることが出来るように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域・ふるさと訪問として、花火大会やりんご祭り、花見や思い出の場所などに出かけるほか、近くのお店の買い物を通して、店員とのコミュニケーション・馴染みの関係をつくるなど、利用者一人ひとりの思いに沿った外出ができるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	二階建ての二階部分がホームという環境にあることから、ホームの出入り口には、「抑制」という意味ではなく階段での転落防止のために施錠している場所がある。なお、居室等その他の部屋には施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立ち会いのもと、1階のデイサービスと合同で、また近隣の方々の参加を得ながら、年2回の火災を想定した避難訓練を行っている。地域住民の協力が不可欠であるとの認識に立ち、運営推進会議の議題として取り上げ、協力を依頼している。	○	運営推進会議の委員の方々のご意見等を得ながら、近隣住民の協力・参加の下、火災(夜間想定を含め)のほか自然災害に対応した訓練の実施を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、同法人内の管理栄養士の指導を受けながら、栄養バランスや量等に配慮をしている。食事、水分の摂取量についても、毎日、チェック表に記録しており、通院支援の際に持参して主治医からアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花を生けたり、共有スペースには四季の行事の装飾など手作りのものを飾ったり、ソファを設置するなど、狭いながらも工夫して、皆がくつろげるような居住空間づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家族の写真や人形等を飾るほか、タンスの代わりにダンボールに衣類を入れたり、カーテンを洗濯ばさみで止めるなど、各々に住まいの工夫をしながら、居心地の良い居室づくりとなっている。		